

## 二、三才児保育への希望



角 尾 稔

編集部からの依頼に「希望」とありますので、やかましい学問的なことはなれて、ザックバランに、希望を述べてみることにいたします。

### 四、五才児保育の水ましでないものを

幼稚園でも、最近では三才児保育が、ずいぶんふえてきました。そのあるものは、幼稚園が急にふえたこと、また都心部などでは幼児数が減ったことから、余裕のできた施設・設備が転用されて三才児保育が行なわれることが多いようです。

三才児保育を行なうにいたった理由はともかくとして、実際におこなっていくからには、三才児保育にふさわしい保育をやってほしいものと思います。四才児、五才児の保育を程度を下

げ、水まししたような気持ではやってもらいたくありません。

### 家庭の教育親まで指導する

二、三才児保育を依頼してくる親を眺めてみると、四、五才になつてからわが子の保育を依頼してくる親とくらべて、ずいぶん違いがあるのを感じます。

二、三才児保育を希望する親の中には、一部には「少しでも早くからよい教育を」と望む親があり、他の一部には「家では面倒が見られないからどこかをお願いして」という親があります。早教育を目指す親たちの中には、とかくゆき過ぎた知的教育を圖に期待しています。そして他の親たちは、この年令の教育的意義については全くといっていいほど無関心な親がいるわ

けです。

つまり、一年保育や二年保育の親にくらべて、極端に考え方の違う親がいっしょになっているのが、三年保育だといえます。ですから、保育者として、しっかりとした考えをもち、二、三才児の保育がどうなくてはならないかを親たちに示し、子どもの本当の幸福のために、親たちを巻きこんで、いく努力と実践を期待せずにはいられません。

こうしたことは、二、三才児であるから、とくに親との連絡を緊密にしなくてはならないという毎日の保育のための連絡以上のものを指しているのです。ハナ紙、ハンカチを忘れずにもたせてほしい、迎えの時間におくれないように来てほしいといったことはもちろんですが、家庭と幼稚園とが理解し合い協力し合って、よりよい指導をしていく体制がうちたてられなければなりません。

二、三才児の保育は、四、五才児の親たちが、園に対して、「おねがいします」といって依頼してくるのを引き受けるのは、異った覚悟でひき受けてほしいものです。

## 二、三才児にふさわしい施設・設備を

今まで年長児の保育をしていたところで、その施設を二、三才児向きに転用しようとする際など、とくに施設・設備の充実

に心掛けなくてはならない点でしょう。もう何年間も、二、三才児保育をしているところで、費用の点などから不便をしのいで、不十分な施設で保育をやっているところを見かけます。

例えば手洗いが高過ぎて不便だ、蛇口の口径が大き過ぎる、操作が二、三才児向きでない、便所が暗い、便器の数がすくない、大きな構造が二、三才児向きでない。給食施設・設備がない、畳敷きの場所が狭い、玩具の数が少ない、玩具の種類は多いが、同じ種類のものを多数ほしい、といったことがたくさんあります。

こうした施設・設備が、とどのつていないということは、園の財政に関係することで、なかなか思うようにならないでしょう。しかし、子どもが失敗することが多くて、保育者として、手がかかるといふだけの問題ではなく、そこでは子どもの基本的な生活習慣の教育がしにくい、いや応々にして、好ましからざる習慣を身につけてしまうものであることに注目すべきです。よくない施設をがまんして使っている保育者の忍耐強さは、決して美談ではなく、正しく順調に生育させられるべき幼児に対する冒とくときえなるのです。

次に施設・設備の点で、私が二、三才児保育にとくにのぞみたい点をあげてみましょう(前述の施設・設備の不都合な点の

例であげたものと重複するものはぶきます。

### ○便器

既設の便器の数をふやしたり、取りかえることは困難でも、おまるを買いこんで、用意することは比較的容易でしょう。おまるは、ある時期がくれば卒業してしまうものではありませんが、家庭生活ではまだまだ使っている年令のことですから、園でも用意しておくことは、災を転じて福となすと同様の効果があると思います。

小便器の高さの高過ぎるころでは、床を高くするぐらいの気持で、立派なすのこを置いてやりましょう。簡単な踏み台や、白木造りでグタグタするすのこはかえって逆効果です。

### ○日当りのいい広い保育室を

二、三才児は人数が少ないからといって、保育室が狭くていいわけではない。並行的に同じような遊びを、めいめいの子どもがやりたい年令であるし、広い部屋がほしいものです。家庭にはないような広い空間が、園にあるということが望まれる条件といえましょう。

### ○遊具・玩具

孤立しがちな子どもを、一対一で——しかもべたべたしたものでなく——遊べる遊具や玩具がほしいと思います。箱プランコ、連結できる貨車、三、四人で乗れる木馬、向きあつ

て球ころがしをするための大きなマリ、といったたぐいのものをぞみます。

種類の多いことよりも、同一の玩具を多数そなえておいてほしいものです。

### 感情・情緒の教育を

二、三才児保育に何をのぞむかといわれて、「何かできるように、覚えるように」といった知的・能力的なことよりも、むしろ、感情や情緒の円満な成熟ほど期待したいものはない。このことは、極言すれば、いわゆる基本的な行動様式のしつけ以上に望みたいことです。

二、三才児保育によって、手が洗える、ひとりで、食事ができる、便所で用をすまうことができる。……こうした自分の始末が自分でできるようになるということも、表面的な行動だけにとらわれて、喜んでいたくない。たしかに、四、五才児から保育をはじめると二、三才からはじめる方が、子どももスムーズに保育者のことばを受けとめるし、友だちにならって学習する。それ故にこそ効果的であることは、よくわかるのだが、むしろ、子どもが、自分の周囲の事物・できごとに対して、望ましい感じ方・考え方をもち、安定した感情・情緒でいられる子どもに育てることに重点をおいてほしいものです。

一輪の花を見ても、名前を覚えたり、その名前を知っていることが自慢でならない子どもよりも、その一輪の花の美しさを喜び、ひとりぼっちで淋しそうだねといった心がもて、お水を飲ませてあげましょう、といった積極的な子どもに育てることを考えてほしいものです。

二、三才児は、ちょっととした気に入らないことに対して感情に激しく、見さかいない状態によくなるものです。でも、自分のとりかこんでいる人たちの親切、おだやかな行動のなから好ましいパーソナリティが形成するようにしてほしいのです。頭でする分別のある子どもに育成しようとするよりも、理屈でなく感情・情緒の自然なあらわれが、結果として望ましい行動になっているような子どもでありたいと思うのです。

「そんなことをしてはいけません。よその人が迷惑します」こういった禁止のことばによって、子どもたちに、八わがまま勝手な行動が人に迷惑を及ぼすからいけないことだVといった形で理解する。だが、人間の行動は——もちろんこうした理解の上に立つという側面もあるが——もっと感情的・情緒的な基盤から考えてみなくてはなるまい。二、三才児の保育に、わたくしは、保育者がおだやかなかに人間的感情のこもった保育の行なわれることを期待してやみません。もう少し年長の子どもには通用することでも、この年令の子どもには通用しないこと

がたくさんある。「積木をかたづけましょうね」ということも、ある時期には悪くはない、だが「積木さんが、お家へ帰りたいっていつてますよ、運転手さん！」のせていつてあげてください」これに似たようなげ、方が必要な二、三才児です。

#### 成長の細かな記録を

成長・発達のはげしい時代の二、三才児を保育するのであるから、子どもの成長の細かな記録をとって、ひとりひとりの成長の足どりをよくつかみながら保育してほしいものです。多くの保育者は、そうしたことは心の中にしまいで込んで、出たとこ勝負の名人芸的保育を展開していつてます。

でも、今後の二、三才児保育に期待するものが多いだけに、「二、三才児保育」の成長のために役立つ記録がほしいものです。それは、回想として語られる逸話ではなく、個々の子どもの生活・行動の変化の細かな記録です。その中に、二、三才児としてはじめて集団の生活にはいつた子どもの変化が記録され、二、三才児保育が、名人芸から一般化され、科学化される日もくることを期待したいところです。

(東京学芸大学)

\* \* \*